

〜The Great Luck 音声9〜

こんにちは、佐藤文昭です。それでは今からですね。音声を収録していききたいと思います。今日の音声の内容はですね、結構聞かれることが多い、ビジネスの秘訣であつたりとか、プライベートがうまくいく秘訣というものを、結構聞かれますので、そちらをテーマにお話ししてみたいなと思ひまして、収録をしております。

結構言われるのはですね、どうして、見返りを求めずにやったりするんですか？っていうような、お話をいただいたりもするんですね。要は通常であれば、自分はAというものを差し出すから、あなたもそれ相当のものを差し出してくださいねっていう。そのバーター的なもの。

例えば、一つのビジネスをスタートするのであれば、私は50を出しますので、あなたも50を出してください。対等ですよねっていうような発想、考え方だと思うんですけども。

まずここで一つ言えるのは、そういうジョイント的なものでうまくいかないよっていう人もかなりいると思うんですよ。

相手の出方を見る「引き算」の思考がすべてを壊す

実際、私自身、ジョイント志向っていう本を以前に出させていただいているので、そのジョイントしてビジネスをスタートするっていうのがものすごく得意であり、うまくいくんですね。で、それがうまくいく人といかない人の差っていうのが、すごく明確にあるんですね。

まさに、今のお話にあったように、私が50ですから、あなたも50を出してください。それが、お金っていうものではないんですね。お金というものもそうなんですけれども、ではなく、例えば私が50のそのビジネスの50%分を私が負担しますから、あなたもじゃあ50%分負担してくださいねっていうふうな発想になると思うんですよ。

で、それで意気投合してスタートをしたはいいものの、やはりファイフティファイフティで仕事を分担するっていうことはまずありえないですね。そのビジネスに関して言えば、どちらかに偏りが出るのは当たり前前の話であり、それも時間軸によって違うんですよ。例えば、スタートして一ヶ月は、Aさんの方が偏りが強いかもしれないけれども、二ヶ月目はBさんが強いかもしれないというふうに、その時間によっても偏りが出ますし、将来的にもやはりAさんは80%で、Bさんは20%になってしまうことだってあるわけじゃないですか。

それはビジネスをしていく上で、きっぱりと半分に分けるということはできないので、それは致し方ない。当たり前前に起こることなんですけども、多くのジョイントしてうまくいかないパターンっていうのは、私はこんなにやってるのに、あなたこれしかやってないのであれば、あなたと同じくらいしか私やりませんっていうふうになっていくんですよ。

例えば、私が60%やってるのに、あなたは40%しかやってない。だったら私も40%に抑えますっていう。ってなってくると40%以下になってくるんですね。自分のやって提供しているものが。そうになると、相手も今度不満になってきて、えっ？あなたが30%しか出してないんだったら、私もその30%に抑えますと言って、どんどんパワーを落としていくと、いずれゼロになるのは当たり前で、そもそも、お互い50%を出し合っても、ビジネスなんていうものはうまくいくかどうかっていうのは、本当にフィフティフィフティでわからないんですね。

それを分からない状態で精一杯やっても、うまくいかも分からないのに、お互いがパワーを抑えてやってしまったら、うまくいくものも、うまくいきませんよね。それは、誰が想像したってそうなるんですよ。でも、わかってても、いざ当事者となって、自分がそのビジネスをやり始めると、そのパワーを落としてしまう傾向にあるんです。相手の作業量を見ながらですね。

自分の「全力」が相手の「全力」を引き出す、相乗効果の法則

でも、私のジョイントしている案件っていうものがなぜ、そのうまくいくのかというと、掛け算の法則も知ってるっていうね。私が例えば100を出す、そして相手も100を出すと掛け算で1万になるんですね。だから、結果がお互いに半々に分け合ったとしても、もう1万の半分なんで5千ずつ分け合えるわけですよってことです。

つまり、自分が提供するものが多ければ多いほど、掛け算の結果は大きくなるわけですよ。必ずね。となるとですよ、お相手がゼロであれば、自分がいくら出してもゼロにしかないのです、相手が1しか出さないのであれば、それは自分の出したもののしか結果にならないので、それはそもそもジョイントっていうものが成り立たないんですよ。

でも、相手が1以上ですよ。つまり1.1でもいいんです。それが2とか出してくれるだけで、例えば私が100を出すと、倍の結果が生まれるわけですね。つまり、ジョイントする以上は、自分の目一杯を提供したい、提供するっていうね。まずはその覚悟ですよ。

最初のジョイントするときの相手の出方を見て、自分の出し加減をコントロールしようっていう発想は、実際には全くないんですよ。やっても意味がないのは分かってる。だから、プロジェクトをやるのであれば、自分ができることはすべて全力でやろうっていう発想なわけですね。だから、結果うまくいくっていうね。

これは、ジョイント志向というのは本にも書いてるんですけど、そういうことで。全力で出し合うんですね。で、私が全力でものをこう出す、提供する、いろんなものを提供すると、相手も全力で提供してくれるようになるんですよ、私ももっとやろうってなるじゃないですか。だったら、あなたもそんなにやってくれるんだったら、私ももっと出すよ。じゃあ、もっと出すよって相乗効果ですよ。お互いに出しすぎるっていうね。すごくいいプロジェクトになることが本当に多いんですね。それは自分のスタンスの問題ではあると思うんですけども。まずそれを知るっていうことはすごく重要なと思います。

だから、ジョイントをするときにうまくいかないのはそこだと思います。出し渋るんですね、もしくはゼロとゼロ。一とゼロとかのジョイントは本当にゼロになるか、減るだけなので、それはジョイントする理由がないですね。ジョイントというものは、ある程度カードを持っている状態でジョイントした方がいいです。だから、これから起業するっていう方たち、二人がジョイントしてもうまくいかないのは、そういうことですよね。

もちろん、これから起業をしようという人たちが何か持っていればいいんですが、その数字を掛け合わせることができるのであれば、結果は数字は大きくなります。もちろんね。でも、ゼロとゼロの全くないもの同士が掛け合っても、結局はゼロにしかならないので、まずは自分の数字を高める、自分のカードをたくさん持つっていうようなことを考えるっていうのも、一つの手かなというふうには思います。

見返りがない時こそ「ラッキー！」と思える理由

これは一つ目のファーストステップの考え方なんですけれども、実はそのさらに上の考え方っていうものがあって。これが今回この音声でお伝えしたかった内容なんですけども。

よくですよ、相手にこれをしてあげるときには見返りを、相手はこれをしてくれるから、自分はこれをしようとかねっていうふうに考えるわけじゃないですか。つまり、その相手とのこの交換バーター、その交換する材料の量を均等に保とうとするのが、だいたいの発想だと思っんですね。

自分が10というものを提供する。お金じゃなくてもいいんですよ。10というスキルを提供する代わりに、相手からもその10というスキルを提供してもらおうとか、10のスキルと同じ対価のものを自分にも提供してもらおうとか。ギブアンドテイクみたいなイメージっていうのが一般的な発想だから、あの人とは組む価値があるかっていうふうに、まずは見定めると思っんですよ。

例えば、プライベートな話もビジネスも全部一緒ですね。同じなので、すべての根底にあるもので、人と付き合うと得をするとかね。あの人といると、こういうことがあるから、じゃあ、自分も付き合おうとか、このプロジェクトに入ろうとか。っていうふうだね。いろいろ思考は巡ると思うんですけども、実は私がうまくいく秘訣っていうものがこれかなっていうのは一つあるんですね。

それはこの発想、考え方のそもそもの角度を変えてるんですよ。私の角度は何かっていうと、基本ベースとしてですよ。基本ベースとして、その徳を貯めたいんですよ。だから、これはある意味欲なんです。面白いですよ。欲ですよ、これは完全なる欲で動いてるっていうふうに思っていたでもいいと思うんですけども、その徳を貯めたいっていう欲があるんですね。

つまり、自分が例えば10というものを提供しました。でも、相手側からは何もなかった、ゼロだった時には、私はその10という徳がたまったという発想なんです。だから、ある

意味、自分が10を提供して、相手からは何もなかった。これね、ラッキーって思っちゃうぐらいなんですよ。めっちゃくちやついてるじゃん！みたいな10もたまっちゃったっていうふうに思えるんですね。

それを自分が提供するいろんなもの、もちろん、自分の愛を提供するというのはもちろんいいですね。自分のスキルを提供する、自分のお金を提供するっていうふうに、相手に提供して何も返ってこなかった、もしくはその提供した分よりも低く返ってきた場合とというのは、その差額分が徳としてたまるっていうような発想なんですよ。たまっていく。だから、ある意味、何も来ない方が嬉しいっていうね。

「徳」という宇宙銀行の、知られざる仕組み

それ以上のものが返ってきちゃったら、自分には徳がたまらないですよ。たまらないから、また返しちゃうんですね。相手に余計に来ちゃったことで、向こうも、その徳という概念を知っているのであれば、お互いに返しちゃうみたいな、おかしいことが起きるん

ですけども、それもある意味面白いですよ。面白がってそれをやっているの、宇宙はすごい面白がってね、そういうことをやってる人間にはサポートしてくれる、大きなサポートしてくれることが多いので、それはそれでいいと思うんですけども。

なので、その返ってこなかったらラッキーっていうくらいの発想でいけば、相手からしてみたらえっ、なんでこの人は見返りを何も考えずに、こんなに提供してくれるの？っていうふうと思うはずなんです。そう思わなくてもいいですよ。だから、結局それを思ってもらうためにやってるわけじゃないからですね。ここはね、その面白いところなんですけども、私としては相手に見返りを求めずに何でも提供するっていうのは、相手にとってはなんでこんなことしてくれるんだろうというふうに疑問に思うこともあると思うんですよ。

じゃあ、何か将来的な見返りを求めているんだろうなっていうふうに思うかもしれない。でもね、そこも全く違うんですよ。実は、徳というものは、その方から返ってくるわけで

はないっていうことですね。返ってくるわけじゃないんだから、徳というものを溜めておくと、本当に困ったときとかは、本当にその徳をどんどん使って宇宙が助けてくれるってというような発想を持っているんですね。これを完全に信じ込んでいるんですね。

だから、どんどん徳を貯めていくことで、その徳っていうものをもっと抽象的に考えていたりもするんですね。それはどういうことかというところ、今実際には私の人生というのはこれまで何十年と本当にずっと助けられている。本当に守られているなっていうね。

目に見えない資産の相続…徳という名のバトン

もちろん、とんでもなく起伏がある人生だと思います。もうジェットコースター並みの起伏のある人生だと思うんですけども、ジェットコースターも、その急下降をして、下の超えてはいけないラインも超えてしまったことも、多々あるわけですよ。その時であつても、必ずサポートが入るんですね。誰かがその時にサポートしてくれる。だから、とんでもなく最悪の状況というものは回避してくれてるんですよ。

でも、それは徳がたまってるからっていう発想をしているんですね。じゃあ、その徳っていうのは、幼い頃からためてたのかっていうと、そうではないっていうふうに、私は思うわけですよ。つまり、この徳っていうのは私じゃない誰かに貯めていただいたという可能性だってあるわけですよ。

それはわかりませんよ。過去世であるかもしれないし。ご先祖様であるかもしれない。自分のおじいちゃん、おばちゃんであるかもしれないし、もしくはその一族の誰かかもしれない。それは分からないけれども、私じゃない、誰かの徳の可能性だってあるわけですよ。それによって私は助けられてるかもしれない。

ということは、私もそうやって徳をどんどん貯めていくことによって、私の子供も孫、もしくは私のその親族、一族、もしくは私の周りの仲間たち、もっとというと地球全体っていうところまで、行くかもしれないんですけども、本当にその徳が使われるのであれば、人生が落ち込んでマイナスを超えた時ですよ。そのタイミングで、その得が使われるの

であれば、その方は救われるわけじゃないですか。だから、私はその徳を貯めていきたいんですね。

なんでかと言えば、本当に私自身が0からマイナスに入っていく状態っていうのを、本当に経験しているんですよ。で、そんな経験をしてても、はたから見たら、いやいや普通にいい生活してるじゃないですか。とかすごい生活してるじゃないですか。みたいにも思える。まあ、思ってもらえるような感じなんですけどね。

それは全て私にサポートが入ってるからなんですよ。だから、私の友人にも「今だから言えるんですけど、文昭さんはとんでもない、もう人生で最悪な期間を去年過ごされてたんですよ」みたいなことも言われたことがあるんですね。その時に、ああ、そうなんだと思ってる。で、そのことを振り返ってみるわけですよ。その一年間は確かにうまくいかなかった。例えば、事業がうまくいかなかったりとか。立ち上げた会社は何社も潰れていくとかね。本当にどうしても決めたかったことが決まらないとか。考えてみたら、すごくよく

ない。でも、俯瞰した時にはよくないっていう判断でもないんですよ。それがあからこそ、今があるとかの発想ができるので。できる人間なので、良くなかったわけじゃないけど、はたから見たらそれは良くない現象ですよ、が多々起きている。

収入もどんどん減っていったりとかするわけですよ、その中で。それでも、やっぱり傍から見たら、素晴らしい生活をしているように見えるんですね。それはなぜかというと、やっぱりサポートが入るんですよ。友人からのサポート、仲間からのサポート、それによって守られているんですね。

高次元の視点を持つと、この三次元世界は驚くほどうまくいく

なので、自分も経験してて守られたので、やはり自分もそういうポジションに立てるのであれば、そういう困ってる人とか、友人たちを守りたいっていう気持ちがすごく強いんですね。時にもちろん、友人とかが相談に来たら守ってあげたい、全力でできることは全部やりたいうふうには思います。それにプラスで徳というものを貯めておくと。そ

れが、どこかのタイミングで自分の周りに使われるんじゃないかっていうふうには、本気で思ってるわけですよ。だから常に徳っていうものを貯めときたいんですね。

で、どれくらい溜まってるかなんてものは、私には全く分かりません。全く分かりません。いけども。貯めるっていう行為自体はできますよね。だから、とにかく貯めとく、見えないう貯金ですし、いくら入ってるかも分からない貯金通帳なわけですよ。

でも、どんどん入れておくことによって、何かの役に立つっていうふうには思っている。もちろん、私がまた窮地に立たされた時とかも、できれば、その徳を使ってサポートをいただきたいなっていうね。ある意味、邪な思いもあるわけですよ。やはり、そのマイナスっていうものはきついので、どうしてもね。やはり体験しなくて済むのであれば、したくないなっていうのはありますよね。

だから、助け合いというのが、できるときには自分はそのことをしたい。やっておくことによって、自分が今度マイナスに触れたときに、本当にそういうものがいろんな形

で助けとして入ってくるので、見返りを求めずに何かを提供しているっていう自分がいます。

だから、そういう角度で私は行動していますので、だから、傍から見ると見返りもないことを、何も得られないにもかかわらずやってるんですかっていうふうにもね、見えるんですよね。見えるけれども、いやいや見返りを求めていますからっていう話なんですよ。実を言うと、それは得という見返りを求めているんですよ。特に守られたいっていうところですよね。ある意味、それはもう欲ですよね。

なので、そういう発想まで持っていくと3次元的な世界であれば、ものすごくいいことがどんどん起きるようになるわけじゃないですか、なりますよね、それは。だから、その発想源、その抽象度で生きていくことによつて、3次元的な世界ではものすごく生きやすくなると、私自身も、それを実践してて思いますので、もし、この音声で何かね、そうか

もなとか、ここの部分は使えるかもみたいなところがあったら、ぜひ実践してもらえたら、嬉しいなと思ひまして。今回は、こういう音声を収録してみました。

また、何かこれも伝えたいなということがありましたら、このような音声としてですね、お伝えしたいと思ひます。本日も、長い時間、聞いていただいてありがとうございます。また次回の音声でお会いしましょう。ありがとうございます。